



京都大学高等教育研究開発推進センター

第 87 回公開研究会・国際シンポジウム

JSPS 科研費基盤研究 (A)「大学教育改善の促進と教育イノベーション普及のための『大学教育コモンズ』の構築」(研究代表者: 飯吉透)

# 学生の学びを どう記録し 分析するか

—MOOCs、アクティブラーニングと

Learning Analytics をめぐって—

“How to Collect and Analyze Data on Student Learning:  
MOOCs, Active Learning, and Learning Analytics”

現在国内外において、学生による主体的・能動的・実質的な学習の実現に向けた様々な取り組みがなされていますが、それらに伴い、教授学習活動の可視化や分析・評価を行う方法やその実践的な適用への関心が高まっています。とりわけ「ラーニング・アナリティクス (Learning Analytics)」と呼ばれる「学習や学習環境を理解し、最適化や改善を行うために、学習や文脈に関わるデータを測定・収集・分析・報告する手法」は、MOOCs (Massive Open Online Courses: 大勢の学習者に無料で提供される公開オンライン講義)、LMS (Learning Management System: オンライン学習やブレンディッド学習のための教育支援システム) や e ポートフォリオなどの利用や普及とも相まって、教授学習過程の解明や学習効果の測定・検証を通じた教育改善を促進するものとして、大きな期待を集めています。本公開研究会・国際シンポジウムでは、長年マサチューセッツ工科大学で教育のオープン化や ICT を利用した先進的な教育ツール・環境の研究開発に携わり、現在はオーストラリアのクイーンズランド大学で大学教育改善に多面的に取り組んでおられる Phillip Long 博士をお招きして、大学教育の包括的な進展のために「学生の学びをどう記録し分析するか」を探ります。

## 2014 年 1 月 26 日 (日) 13:00 ~ 17:45 (受付 12:30 ~) 京都大学 芝蘭会館 (稲盛ホール)

〒606-8302

京都府京都市左京区吉田牛ノ宮町 11-1

### アクセス

#### 京都市バス

JR 京都駅より市バス D2 のりば (206)

阪急河原町駅、京阪祇園四条駅より (201)(31)

いずれも京大正門前下車徒歩約 2 分

#### 京阪電車

出町柳駅下車徒歩約 15 分



### Professor Phillip Long

フィリップ・ロング博士は、オーストラリアのクイーンズランド大学の情報電子工学部教授 (イノベーション・教育工学) で、同大の教育イノベーション・テクノロジーセンター (CEIT) のセンター長を務め、デジタル学習環境に関する研究に従事している。カリフォルニア大学サンタクルーズ校を卒業後、ペンシルバニア州立大学で Ph.D (生物学) を取得。同校の MOOC プロジェクト UQx を統括し、edX コンソーシアムの「プラットフォーム開発」と「研究・アナリティクス」の両委員会に所属。Journal of Learning Analytics の共同編集長や多くの諮問委員会やアドバイザーボードのメンバーを務めている。



主催: 京都大学高等教育研究開発推進センター

協賛: 河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会

協力: 京都大学学術情報メディアセンター

後援: 大学 ICT 推進協議会 (AXIES)

参加費無料 / 同時通訳あり / 定員 120 名 (先着順)

申込方法: 下記 URL よりお申込み下さい

[http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/inter\\_sympo/20140126/index.html](http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/inter_sympo/20140126/index.html)



# 学生の学びをどう記録し分析するか

—MOOCs、アクティブラーニングと Learning Analytics をめぐって—

総合司会：酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

13:00 開会挨拶 淡路 敏之（京都大学理事（教育担当））

13:10 基調講演 Phillip Long (Professor/ Director, Center for Educational Innovation and  
Technology, University of Queensland)

「データを『レンズ』として利用し『学習の霧』を見通す—カゲロウか実体か?—」

“Seeing through the Fog of Learning Using Data as a Lens: ephemera or substance?”

現在、大学の教室で行われていることの大半は、教員が概念について語るか手法を示してみせるというやり方であり、「その教え方が学生にどのような影響を与えたか」という評価は最小限にしかなされていない。教室で用いられるピア・インストラクションやクリッカーなどのテクノロジーは、教員が学生に与える影響をリアルタイムで可視化するためのささやかな「窓」を提供してくれるが、さらに、デジタル学習環境の到来により、学習におけるインタラクションの背後に何が存在しているのかを「見る」ことを可能にする新たな世界が開かれつつある。MOOCsのようなオンライン学習環境において、ラーニング・アナリティクスにはどんな可能性と限界があるのだろうか。「お膳立てされた」ような効果的な学びに関する識見と英雄的な個々の研究者の業績を越えて、ラーニング・アナリティクスは持続的な実用に至るのだろうか。キャンパスの均衡状態を変えるのは、単独では常に勝ち目のない戦であろう。データに基づいた学習パートナーシップこそが、的を射た教育改善には求められる。

14:40 (コーヒーブレイク)

15:00 講演 飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

「日本の高等教育改革とアナリティクスの可能性

—MOOC、オープンエデュケーション、ICT利用による教育支援をめぐって—」

15:40 指定討論

1 美濃 導彦

（京都大学学術情報メディアセンター 教授、情報環境機構長、京都大学CIO）

「ICT利用による大学教育支援の観点から」

2 鳥居 朋子（立命館大学教育開発推進機構 教授）

「教育マネジメントの観点から」

3 溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）

「アクティブラーニングの観点から」

16:30 (コーヒーブレイク)

16:45 パネルディスカッション

モデレーター：松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター 教授）

17:35 閉会挨拶 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長）

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

協賛：河合塾教育研究開発本部、関西地区 FD 連絡協議会

協力：京都大学学術情報メディアセンター

後援：大学 ICT 推進協議会 (AXIES)

問い合わせ先：京都大学高等教育研究開発推進センター 事務局

(550center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)